

## 27. 生活指導の一環として 人形劇を試みて (第2報)

国立療養所東埼玉病院

景山恭子 川上範子  
吉岡桂子 山川和正  
矢萩悦 山本訓子

### 〔はじめに〕

共同生活の中でのDMP児の個人の生活をより豊かに楽しくするためにはどうすればよいか、人形を通して考えさせ、その中で自分のおかれている場を客観視し、又ルールの必要性を認識することを期待する。

生活指導の一環として開棟以来現在まで、患児と職員による反省会を週一回行っている。そこでとりあげられる問題を題材にしてわかりやすい親近感の得られる簡単なストーリーを作り、人形劇を試みた。従来の傾向として反省会でお互いに納得し決めたこと、注意されたことでもすぐ忘れてしまったり、素直に実行しないでその後もたびたび注意をうけたり、反発感をもったりして反省会の効果が思うようにあがらなかった。そこで自分達の手で人形を製作し、自分達の生活を人形劇を通して客観視させようとした。

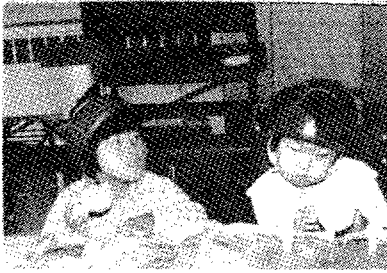
### 〔方法〕

DMP児の小中学生35名を対象に余暇時間を利用して(月・木)の週2回、7、8月については右表のような指導計画に沿って行った。①反省会に出た問題場面、ヘッドギア、安全ベルトの着用、偏食言葉使い、自由時間の活用等を題材にして、その場面での会話を取り入れた簡単なストーリーを作る。

7/11	18:00~2:00 ・有人制作 (日)	お笑い劇場 入道 パレット 小倉(長崎)
7/18	18:00~2:00 ・人形作り (月)	前田の橋で 海老蔵お祭り
8/1	18:00~11:00 ・舞踊作り (日)	町子・シン・東 舞臺 舞臺作
8/8	18:00~11:00 ・人形作り (日)	お笑い劇場 入道 パレット 小倉(長崎)
8/15	18:00~11:00 ・人形作り (日)	お笑い劇場 入道 パレット 小倉(長崎)

②人形の製作、人形の芯作りはあらかじめ職員が行

なう。特に頭作りでは軽くて大きいものを作るため綿を使用し衣服も軽い裏地を使用したり患児の着古したTシャツを利用する。③舞台作り、車椅子の高さで細幅の机を利用し、幕は高学年の女子が電動ミシンで仕上げた。照明は乙ライトを利用したスタンド式と蛍光灯を利用して卓上式に改良した二種類を製作し、患児がペンキを塗って仕上げた。④せりふ、音の録音、患児達の日常会話、でき事を録音したものを活用し、脚本作りをする。⑤上演、人形劇のおもしろさを理解させるためにプロによるもの、職員によるもの、患児自身によるものを行った。プロによる上演では、はじめ、反発的なことばを投げかけていたが、途中から静かになり爆笑したり、又ルール



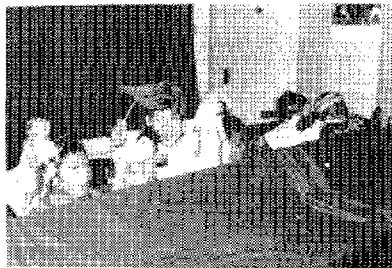
を破る人形に対しては批判することばかり出た。一方職員、患児自身による上演では、偏食をテーマにとりあげた。自分達で積極的に配役をきめ大変にぎやかにとりくんだ。

さらに上演を8ミリ映画に収め楽しく生活指導の実をあげるようとりくんだ。

#### 【おわりに】

ことばだけで注意をして無頓着だったり、反発する態度しか示さなかった患児が、身近なストーリーをとりあげ、身近なことばで対話をし、また視聴覚に訴えたことにより自分達のこととして受けとめる姿勢が出てきたように思う。劇中のせりふを日常生活の中で使ってお互いにしめる場面もみられ、次のストーリーを待っている患児もふえてきた。

また、単なる視聴覚によるものだけでなく、その中において自らの手を動かし、協力して何か一つのものを楽しく作り上げるということは、生活指導以上のものが期待できるのではないかと思われ、今後も指導計画にそって回を重ねていきたい。



↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

〔はじめに〕

共同生活の中での DMP 児の個人の生活をより豊かに楽しくするためにはどうすればよいか、人形を通して考えさせ、その中で自分のおかれている場を客観視し、又ルールの必要性を認識することを期待する。

生活指導の一環として開棟以来現在まで、患児と職員による反省会を週一回行っている。そこでとりあげられる問題を題材にしてわかりやすい親近感の得られる簡単なストーリーを作り、人形劇を試みた。従来の傾向として反省会でお互いに納得し決めたこと、注意されたことでもすぐ忘れてしまったり、素直に実行しないでその後もたびたび注意をうけたり、反発感をもったりして反省会の効果が思うようにならなかった。そこで自分達の手で人形を製作し、自分達の生活を人形劇を通して客観視させようとした。